

【トップインタビュー】 現地現場主義で旧市町の融和推進 = 奈良俊幸・福井県越前市長

「文化的にも共通基盤があり、非常に良い合併だった」と振り返るのは、福井県旧武生市と旧今立町の合併で誕生した越前市（8万4400人）の初代市長として、11月で就任1年を迎える奈良俊幸氏（なら・としゆき = 44）。春と秋の年2回、市内の各地区で市民と直接対話する「地域ミーティング」を始めるなど、「両市町の融和を心掛け、自分では現地現場主義と言って、小まめにいろいろな所に足を運んでいる」と自負する。



合併時の協定内容は、新庁舎の建設など盛りだくさんで、財政のかじ取りにも苦勞が絶えない。「協定の中から最優先の事業をよりすぐっても、まだコップからあふれる。あれもこれもしたいができないとなれば、あれかこれか選択せざるを得ない。集中と選択のマネジメントがトップに求められている」と気を引き締める。

また、「産業支援に取り組むことが、地域を支える人づくりにつながる。市民と共同でまちづくりを進めて、快適で住みよい市を目指す」という持論がある。企業進出への立地支援補助金制度を設けたり、部局横断の専門チームを作ったりするなど産業振興に力を入れ「進出している大手企業も大型の増設を決めていただいた。安定的な新規雇用も生まれて、消費にもつながり大きな好影響となる」と期待を寄せる。

2006年度末には新市の道しるべとなる総合計画が策定される。「財政が厳しい中で各自治体が自前で自立して生き残らなければならない。きっちりと説明責任を果たして、手堅い確実な総合計画を作って越前丸を運営していきたい」と抱負を語り、任期2年目に臨む。

〔横顔〕早大政経卒。県議会議員（4期）、合併前の旧武生市長を経て越前市長に。松下政経塾で学んだ茶道のキャリアは20年。座右の銘は「成功の要諦は、成功するまで続けることにある」（松下幸之助）。

〔市の自慢〕伝統産業の和紙や刃物など、ものづくりが盛ん。前田利家が初めて城を構えた地としてゆかりの場所が多く残る。

〔ホームページ〕<http://www.city.echizen.lg.jp/>（福井支局・野中良祐）（了）（2006年10月20日配信）

= 閉じる =